

平成29年度

第10回新川和江賞

～未来をひらく詩のコンクール～

表 彰 式

日 時:平成30年2月11日(日)午後2時

場 所:結城市民情報センター3階多目的ホール

ごあいさつ

結城市は、ユネスコ無形文化遺産の結城紬をはじめとする伝統的な地場産業と、古くから受けつがれた文化が根付いている歴史と文化のまちと言われております。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子どもたちです。「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」は、詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与することを目的として、平成20年度に、結城市民情報センターとゆうき図書館の開館5周年を記念する事業として、詩人で名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある新川和江先生の名を冠して創設され、今年で第10回を迎えます。

本年度も、市内在住・在学の小・中・高校生を対象に、詩を募集いたしましたところ、2,346点という多くの作品の応募をいただきました。これもひとえに、関係者の皆様の深いご理解と、詩を愛する気持ちの賜物と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品は、いずれも力作ぞろいで、受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、惜しくも入選を逃された皆様におかれましても、今後ますます詩に関心を持たれ、来年もご応募いただきますことを期待しております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日を過ごされますことを願い、ごあいさつといたします。

平成30年2月11日

結城市長 前場 文夫

ごあいさつ

なんと嬉しいことでしょう！未来をひらく詩のコンクールが、本年度で十回目を迎えることが出来ました。詩を書くことを熱心におすすめてくださった各学校の先生方や、主催者側の市の関係者の皆様方、私を助けて選考に携わってくださる「センダンの木の集い」の有志の方々に、あつくお礼を申し上げます。

そして、すばらしい詩を書いてみごと入選なさった方々や、ご父兄の皆様方にも、おめでとうと心よりお祝い申し上げます。

私がこの賞の設立を市に願い出たことには、理由がございました。私はごく若い日から、学習雑誌や少女雑誌の投稿欄、読売新聞の作文コンクールの詩の部分、萩原朔太郎の生地群馬県前橋市で行われる全国規模の「若い芽のポエム」等々、小・中・高生を対象にした詩のコンクールの選者をつとめてまいりました。そのたびにいつも不思議でならなかったのは、何故か茨城県、ことに結城のお子さん達の応募作品が、見当らなかったことでした。私のふるさとの少年少女は、何を考え、どんな夢を未来に描き、友人やご家族たちと日々を送っているのだろう、それを知るには、詩を書いて見せて頂くことが一番、と有志の方々にお話をし共感を頂き、このコンクールの実現を得たのでした。寄せられた作品を読ませて頂いて驚いたことは、それまで携わってきたどのコンクールの作品にも、勝るとも劣らない優秀な作品が、山と積まれたことでした。

結城には、古い伝統を守り続ける手織り紬や、西瓜やメロン、とうもろこしなど、豊かな農作物のほかにも、私たちには詩があると、これからもどうぞ、自信をもって書き続けてください。お若い皆さんの前には、大きくひらけた未来があります。その未来を、かがやかせてください。花咲き、実らせてください。期待しております。

平成30年2月11日

新川和子

次 第

日時 平成30年2月11日(日)
午後2時
場所 結城市民情報センター
3F多目的ホール

●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞 32名）

●表彰式

1 開式のことば

2 主催者あいさつ

3 来賓あいさつ

4 表彰

5 第10回受賞作品朗読

新川和江賞（1名）

優秀賞（8名）

6 新川和江氏による講評

7 閉式のことば

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

「伝統の田植え」

城西小学校

5年

すとう
須藤

けいた
啓太

☆優 秀 賞

そらをとんでみたら

結城小学校

1年

ねもと
根本

いちか
一花

ぼくのしごと

結城西小学校

1年

うすい
臼井

ほうしょう
鳳 笙

ろっくのひ

江川南小学校

1年

たちあい
立會

はるま
遥真

ぼくのうちゅう

絹川小学校

3年

しのざき
篠崎

かいり
海里

今を大切に

上山川小学校

5年

やまなか
山中

せいしん
聖心

ひかる

結城南中学校

1年

やまなか
山中

みゆう
美優

私の人生

結城第二高等学校

3年

さいとう
齋藤

あい
愛

Roof top

結城第二高等学校

3年

なまい
生井

あやの
綾乃

☆優良賞

ざりがにつり

絹川小学校 1年 赤荻 三郎太

かげ

上山川小学校 1年 山崎 凜花

あさがお

山川小学校 1年 中嶋 沙采

ぼくのやさい

江川北小学校 1年 猪瀬 理仁

いもうと だいすき

江川南小学校 1年 石崎 篤輝

わたしのおとうと

江川南小学校 1年 鈴木 璃子

さよならピアノ

城南小学校 2年 西崎 紗彩

のんびり

城西小学校 2年 石川 凜

あい犬ルーブル

江川北小学校 2年 濱野 純名

ひまわり

江川北小学校 2年 増山 唯花

おばあちゃん

江川北小学校 2年 村野井 瑠

大切な家族

城南小学校 3年 板橋 由奈

ぷくりん

結城小学校 4年 小林 優月

「穴」

城南小学校 4年 潮田 廉人

すいかをそだてた

城西小学校 4年 小郷原 小太郎

最新式のバス

山川小学校 4年 奥村 虎柊

川の世界

江川南小学校 4年 伊藤 有輝

水族館

結城西小学校 5年 坂本 芽生

木と雨と土

上山川小学校 6年 江田 康介

生きている

上山川小学校 6年 清藤 奏太

鏡の中

結城中学校 1年 垣谷 幸歩

雲

結城中学校 1年 笹川 蒼矢

おじいちゃんの畑

結城東中学校 1年 佐藤 実羽

暖かい春の声

結城南中学校 1年 石川 大和

春の道

結城南中学校 1年 上野 颯斗

こころ

結城南中学校 1年 廣江 有紀

「僕」

結城中学校 2年 おいかわ 及川 りょう 凌生

俺の大切な仲間達

結城南中学校 2年 いししま 石嶋 あすさ 梓

野球はおもしろい

結城南中学校 2年 まつもと 松本 ひかる 輝

自由

結城中学校 3年 ファツ ティ ミ フェソ

小さな光

結城東中学校 3年 せきつか 関塚 ゆいな 結菜

水たまり

結城南中学校 3年 にしむら 西村 せいじろう 誠士郎

新川和江賞

「伝統の田植え」

城西小学校 五年 須藤 啓太

やわらかい風が吹き
いよいよはじまった
にゆるにゆる、ずぼずぼ、重い足
代かきあとの田んぼは、そう、
どろどろちヨコシート
ぼくたちの足を誰かに
つかまれ、はなされ、つかまれ、はなされ
キラキラと元気に輝く苗
ひとかぶ、ひとかぶ、植える
友人その一、ゲラゲラ笑い
友人その二、いつの間にか真っ黒泥人間
友人その三、わざとこぼしてひと泳ぎ
ぼくたちのつやつや、かわいい苗達よ
負けるなよ
シリシリとガンガン照りつける
でっかい太陽にも
しとしと雨降りにも
これからやってくる台風にも
ぼくたちのパワーを受け取って
黄金色の世界を見せてくれ

短評 新川和江賞「伝統の田植え」

私たちの国日本は、大昔から「豊葦原の瑞穂の国」と呼ばれて、
やわらかく土をほぐした田に水を張り、稲の苗を植える「田植え」
を、農業の中でも一番重要な行事として、村じゅう総出で行われ
たものでした。時代が変り、今は田植え機にまかせ、働き手の多
くは、すぐに現金収入の得られる職場につとめるようになりまし
た。けれども「瑞穂の国」の子孫である須藤啓太くんたちの学校
には、田んぼもあり、先祖たちのように、泥にまみれての田植え
を、生徒たちに体験させていることは、すばらしい教育だと、感
服せずにはいられません。

泥田の中で、〈足を誰かに／＼つかまれ、はなされ、つかまれ、は
なされ〉というところなど、じっさいに体験してみなければ書け
ない表現で、須藤くんの足は、大人になってもこの感触を忘れな
いでしょう。友人たちのようすの描き方にもユーモアがあり、そ
れより何より、植えた苗に対する愛情と祈りが、苗にも通じ
て、秋には必ず〈黄金の世界〉を見せてくれるでしょう。

あ、この詩が活字になる頃は、すでに輝くようなお米になっ
て、クラスのおさんは、おいしい「おむすび」を頬ばっていら
っしゃるかも知れませんね。

優秀賞

そのまじつでみたらし

結城小学校 一年 根本 一花

「すいいゆめみちゃった」

めをさましたわたしのおしんぞうは
ドキドキしていた

とりみだいにりょうてをひろげてとんだ

とりとりしよにおじいじいをした

やねのうえでならんでひなたぼっこもした

だれかのなきごえがきこえて

てをのばしてひこうきみたい

びゅうんとんだ

くもをくぐってぐんぐんとんだ

こまってるひとをせなかにのせて

まるでヒーローみたいだった

いつのまにかゆうがたになっていた

そらはおかあさんのふわふわのセーターみたいなオレン

ジだった

めをさましたわたしは

となりにねているおかあさんに

おでこをこすりつけた

なんだかあったかくていいにおいがした

短評 優秀賞「そのまじつでみたらし」

こんなすてきな夢をみたら、朝の目ざめがどんなにか気もちが
いいだろうな、とうらやましく思いました。私なんて、学校にち
いづくそいで、道を走りつひけている夢からさめて、ほっとして
いる朝が、今でもあるんですから。ねもとさんが、私の夢の中
に入ってきてくださったら、きっと、せなかにのせてくぐくもをく
ぐってぐんぐんとんで、学校へ送りつけてくださったでしょ
うね。じんと、ほんとうにおねがいます。

優秀賞

ほくのじいじ

結城西小学校 一年 田井 鳳笙

「じいちゃん、はやくじいじ。」

「ほくね」

ほくはおまにいらのじいじを

おもいっせにじい

めねすは じいちゃんのはだけ

たいようがしずむ すずしいじかん

ほくのじいじのじかんだ

チクチクいたい きゅうり

いつもみのがして おおきくなっている

ピカピカおなかとあたまにとげがついた なす

まいにちすべにおおきくなってしまう

みどりだらけでほくのながてな ピーマン

おもいだすだけでくちのなががにがくなる

ほくのたんとうの やさいたち

いえにかえると ママがまっている

しんせんなやさいたちがかわっていく

そして ほくのおなかへ

やさいたちがほくのえいようになつていく

みんなありがとう

短評 優秀賞「ほくのじいじ」

じいじくんは、まだ一ねんせいなのに、じいじををへおもつてきくのじいじ、おじいちゃんのをやそびだけへおつたじいじ行のですね。都会のーねんせいがこの詩をよんだら、ほくも行きたいなあ、じいじををへおもつてきくのじいじ。おじいじのなす、ピーマンが、ピカピカと大うしろをたぬらに描き出されたじいじの、詩をよんでじいじのすもチクチク痛くゆうに感じとれます。とれたてのしんせんなやさいが、お母さんの手とりりりらたじいじ夜にはもう、うすうすのおなかにおおきくつづいてつづいてつづいて、れいそうじいじになびたやさいをよのじいじ料理する私だっ、じいじもじいじらやまじい。

優秀賞

ろっくは

江川南小学校 一年 立會 遙真

はちがつじゅういちにち やまのひ
でも ぼくは ろっくのひとよんでいる
きょねんのやまのひ
かぞくの ろっくがしんでしまった

ろっくは ぼくがうまれるまえから
うちで かわれていた きつねににたいぬ

ろっくと ぼくは なかよし
いっばいあそんで さんぽもいった
ぼくたちのしゃしんも いっばいあって
ろっくが あかちゃんのぼくに かおを
ちかづけているしゃしんを みたと
ぼくは なみだが あふれてしまった

ろっくは いえのこわのすみに
おびつてる

ろっくのろっくは

ぼくは おせなこうをあげた

ろっくにあいたいな

みえないけど おほんだからろっくも
いせんとまじかえってまじこわを
はつてくるかもと きこっ
ぼくは めをのちうじじいじいだった

短評 優秀賞「ろっくは」

ろっくとろっくのは、はるまじくながあかちゃんのときから家々く
の二冊ふたふただった、わんちゃんのですね。八月十一日は、カレンダー
ーにも「山の田」と出ていますが、去年の山の田にろっくが死ん
でしまいましたので、この田はろっくのお命いのち。

しゃしんを見せてくれたわけてはあつませんが、きつねに
にっていたというわんちゃんのすがたは、思えばかくじいじいさま
す。ろっくは いえのこわのすみにおびつてるくろくろく行を
読んだ時、私も、涙ぐんでしまいました。「いせんとまじのわいと
同じく、ろっくのわいと、はるまじくのを、守つてこわね
ろっくにあいたいな。

優秀賞

ぼくのうちゅうでは いっしょに

緋川小学校 三年 篠崎 海里

ぼくのうちゅうでは
どこまでもどこまでも広がっている
まっくらな夜みの中で
光りがやぐたくさんの星

ぼくのうちゅうでは
大きくてあつい太陽が
ぼくにエネルギーをくれる
弱気になったぼくのせなかを
がんばれ!!がんばれ!!とおしてくれる

ぼくのうちゅうでは
おだやかな月が
ぼくをやさしい光でつつんでくれる
とげとげになったぼくの心を
まあめるまあめるくっつけてくれる

ぼくのうちゅうでは
おそろしいブラックホールがひそんでいて
大きくあいた入口が
強い力でぼくのすべてをすくってしまう
ぼくはかがやく星に手をのびて
光の中へだっしゅっすぬ

ぼくのうちゅうでは

毎日たくさんの星がかがやき

ぼくにキラキラの思い出をくれる

そしてまた

どこまでもどこまでも広がっている

短評 「優秀賞」ぼくのうちゅうでは いっしょに

計りようもない広大な宇宙を、「ぼくのうちゅう」と個人の領地のように考えておられるところが、たのしい。それでも、弱気になったり、とげとげしい心になったりするところもあるように、はげましたり、なぐさめたりしてくれるのが、これまた太陽だったり月だったりするのですから、いっしょです。

おそろしいブラックホールもあるそうですから、吸いこまれないうちゅう、気をつけよ。

キラキラかがやく星たちが友だち。「海里くん」などと、うちゅうでは、親しまれているではありませんか。今夜も夢で、うちゅうをたのびてくっつけてください。

優秀賞

今を大切に

上山川小学校 五年 山中 聖心

朝日が東からのぼり一日が始まる

一秒一秒時計の針は止まらない

昨日の私にはもう会えないよ。

明日の私にもまだ会えないよ。

今 たくさん勉強しよう

今 たくさん遊ぼう

今 たくさん笑おう

二度ともどってはくれない今の時間

私は大好きな家族と心に残る思い出を

たくさんたくさん作るんだ

一年三百六十五日笑顔で過ごすため

今 声に出して伝えよう

今 文字にして伝えよう

「お父さん、お母さんアリガトウ」

「これからもまたどうぞヨロシクね」

今は二度ともどってはくれないのだから

私も今ここから

新しい自分に会いに行くよ…

短評 優秀賞「今を大切に」

悪い子のことばかり、新聞などは問題にするけれど、いろいろな子もいるんだ、と感心してしまいました。詩というものは、いい事ばかり並べても、いい詩になるというものではなく、悪いことばかり並べても悪い詩になるというわけでもなく、やっぱり文学ですが、ほろっと出た本音が、全体を生かしている詩としてくれる場合があります。この詩で言えば、結びの二行でしようか。私も今ここから新しい自分に会いに行くよ、今、今、今、来なくっちゃ。

行ってらっしゃい。ここからいきいきとしたあなたの詩がはじまります。

優秀賞

ひかる

結城南中学校 一年 山中 美優

キラキラきらめく太陽
のたちちまわる稲光
しっとりゆらめく朧月
きらきら落ちてゆく流れ星
ほんのりふわふわ飛ぶ蛍
同じ「光る」を集めてみても
みんな違った光を放つ

私が放つ 私の光
誰ともちがう 私の光
遠くの君も照らせるような
明るい光に
私はなりたい

短評 優秀賞「ひかる」

一連の各行が体言止めになっていて、ああ、詩を書きなれてい
る方だな、とまず感心しました。体言というのは、文字が示す通
り、動かぬ体を持った言葉で、一行がしっかりと立ってくねまず。
読者にも物の姿や情景が目に見えてきますので、一行ごとにはっ
きりと胸におさまります。

山中さんは一連でそれぞれに異なる光を放つものを並べ、さて、
と終連では自分が放つ光について考え、遠くの君も照らせるよう
な／明るい光に／私はなりたいと、すこやかな恋こころをもこ
めた、すてきな詩行でうたいおさめています。破れたところのな
い、よく調った詩です。

優秀賞

私の人生

結城第二高等学校 三年 齋藤 愛

この世界に生れる少し前に

私は大きな真っ白のキャンバスを買った

彼は手渡しながらこう言った

「好きな色で好きなように描きなさい。

この砂時計は君の寿命だ。

砂が全て落ちた時、

君の描いた絵を見せてくれ。」

かつて生きる意味を問いかけた事がある

結局意味など何も無いだろう

それなら自由設定でもいいはずだ

だから私はこの一生をかけて描く

大きな絵を

美しい絵にするために生きよう

最高の絵を見せるんだ

タイトルは「私の人生」

短評 優秀賞「私の人生」

この世界に生れる少し前、つまりお母さんのおなかにいる時に、
〈彼〉から大きな白いキャンバスを手渡されたと言われているの
で、読者は一瞬「えっ」と惑わされるのですけれども、目に見え
るように書くという詩的表現の一種。一緒に渡された砂時計と
いうのは、齋藤さんに与えられた生の時間です。その二つを与え
た〈彼〉とは、齋藤さんの運命をつかさどる〈神〉のことなので
しょう。

これが私の人生だった、とこの日に、悔いなく眺めることの
できる、誠実な、美しい絵を描き続けてください。

優秀賞

Roof top

結城第二高等学校 三年 生井 綾乃

「階段駆け上がる方と駆け降りる方なら、君はどっちの方が好き？」

そう聞いて君は瞬間、

「駆け降りる方だね」

同感だと思った

息が苦しいほど切れたりだとか
足が疲れたりとか、しないもんね
そう思ってたんだけど

八月のある日 暑い空、空、空
電線を越えた景色がむしように
見たくなって

カンカンカンカン！ 感情のままに
鉄の階段駆け登って 駆け登って
屋上もう少し 白い雲そのまま掴めそう！
このまま空、飛んじゃいそう！

着いて飛び込んでキラキラ
躍動する心臓がいつもより
体に血液をいっぱい流して

ああなんか、いつもの2倍生きてる感じ
生きてる感じ

君にも見せてあげたいな

この景色 この熱みだいなドキドキ
感じるものが多くなる 風が涼しい
とりあえずそうだ、もう夕方だから
君に今度会ったら教えてあげよう
「駆け上がる方もいいみたい！」って

短評 優秀賞 「Roof top」

階段駆け上がる方と駆け降りる方と、じつに単純きわまりない
問答なのですけれど、読み終えた途端、「駆け上がる方もいいみた
い！」と、おばあさんの私まで胸をドキドキさせながら、叫んで
しまいたくなる、不思議な力を持った作品です。

これが好きというもののなのでしょうね。とくに四連の表現がす
ばらしい。〈白い雲そのまま掴めそう！〉〈ああなんか、いつもの
2倍生きてる感じ／生きてる感じ〉！

階段だけでなく、何か特別に打ち込むものを見つけて、この調
子で行けたら、素敵なんだけとなあ！この人ならきっと見つける
そう思いました。

ねろがにじし

絹川小学校 一年 赤荻 三朗太

おにいちゃん

ねろがにじしにいった

たんぼのすいろ

ぼくもおにいちゃんも

ひとつともしゃべらない

あみをそうつとこうじかす

やったやったあ

あみのなかで

びろがにがじつとじてる

びくくしているのかな

なまきそうかな

なまきかあげるから

ねろがにじし。

かげ

上山川小学校 一年 山崎 凜花

かげっておもしろい

はれたときしかでてこない

わたしのまねばっかする

にげてもにげてもおいかけくる

ゴムみたいに

かげってすずしい

あさひるゆうつ

ばしょがかわる

かげってあせかかないのかな

あつくないのかな？

さむくないのかな？

おなかすかないのかな？

つかれないのかな？

かげってふしぎだな。

優冠賞

あむがお

山川小学校 一年 中嶋 沙采

わたしよりもはやくおきるあさがお
わたしよりもはやくねてしまふあさがお
きのうはあおいあさがお
きょうはピンクのあさがお
あしたはなにいろのあさがおだろう
あさがおのはなはラッパみたい
みみをちかづけるとなにかきこえてきそう
はちやちようちよがあそびにきたよ
あさがおとおともだちになりたいのかな
たくさんあそんだからつかれたね
おやすみなさい
またあしたもあいたいな

優冠賞

ほくのせわら

江川北小学校 一年 猪瀬 理仁

れたす しゃりしゃり
きゅべつ ぱりぱり
なすは やわらかい
きゅうり しゃきしゃき
おくらはねばねば
いもは ほくほく
ちんげんさいは
なまでもしゃきしゃき
いためてもしゃきしゃき
ぜんぶいっしょにサラダにしたら
いろんなおとの だいがっそう

優良児童賞

いつもありがとう

江川南小学校 一年 石崎 篤輝

ぼくのいつもと 2さいのいつもと。いつもほっぺをおおきくくうらませてる、おへちをモグモグなにかをたべている。ちよつともらおうとするやすべあひー。とおいうらむる。いつもおえかきをしてる。くれよんで、ぐるぐるおえかき。いろいろないろでぐるぐるおえかき。ぼくがぐるぐるかいてあげるよ、じょうずとほめてくれる。ちよつとうれしい。

ぼくのいつもと 2さいのいつもと。びっくりするぐらいいおしゃべりがじょうず。たまにぼくもちゆういされちゃう。どこでことばをおぼえるんだろううっふしき。

ぼくのいつもと 2さいのいつもと。いつもうたをうたってる。ぼくがしってるうた。しらないうた。しらないうたは、いつもとがかんがえたらたなのかな。ぼくもまねして、かんがえてみたけど。あまのうかはなかった。ぼくのいつもと。かわいいうた。ときどきかたをたいてくれる。ぼくもたいてあげると。だいすきーと。ぎゆうーとしてくれる。そんないもうとが。だいすき。

優良児童賞

わたしのおとうと

江川南小学校 一年 鈴木 璃子

「あかちゃんうまれたよ」わたしはおおきなこえでみんなにいらせたそのひ、あまおまたいらいしめるはずのママがいなかった。ついにきたか！ドキドキソワソワしながらすごしていた。ひるすきにパパからのでんわ。まちにまったおとうとのたんじょうだった。

あのひからもうすぐ三ねん。まいにちまいにちはかわらないのにおとうとはもうあかちゃんじゃない。わたしもおねえちゃん三ねんめだ。おもちやをかしてあげたり。おかしをはんぶんあげたり。ママのとなりでねるのをゆすってあげたり。がまんすることもあるけど。おとうとのことごとくともかわい。そとあそびがだいすきなおとうと。かいものでおみせをはしりまわっちゃうおとうと。みみそうじがきらいなおとうと。かみなりをこわがるおとうと。ぜんぶぜんぶだいすき。うまれてきてくれてありがとう。これからもずっとなかよしだよ。

わんわんピアノ

城南小学校 二年 西崎 紗彩

わんわん

わんわん

わんわんピアノ

いっばいひいて

れんしゅうしたよ

しっぱいもしたけどがんばったよ
でも

新しいつるつるピカピカの

ピアノにかえちゃった

わんわんピアノ

とおいところへいっちゃんうんだね

のんびり

城西小学校 二年 石川 凜

まどから見える すずめ

ガラスにへばりつく カエル

にわの自てん車に 赤とんぼ
やさしい風

黄金色の田 ながめがいい

オイラは ねこ

外には 出たことがない

夕やけに うっとり

ねえさんに

毛をとかしてもらい

けなみは ツヤツヤ

しゅみは ツメとき

おやつは にぼし

ダイエットしょくは

おことわり

びょういんで

犬が にらんでいる

だから まちあいしつはきらい

ゲージの中で かくれんぼ

ピアノの音に ウトウト

やっぱり 家がすきだ

うでにアゴをのせて

のんびりすくすのが

ーばんいい

優良賞

おばあちゃん

江川北小学校 二年 村野井 瑠

おばあちゃん

ぼくはいつまでも大好きです

いつかまた

おばあちゃんがぼくを

しあわせな思いにしてくれる

そう信じて

ぼくはこれからを歩んで生きます

お空から見ていてね

たとえ おばあちゃんが

遠いお空にいても

ぼくを見ていてね

ぼくをおうえんしていてね

ぼくを愛し続けていてね

優良賞

大切な家族

城南小学校 三年 板橋 由奈

わたしが生まれる前からの家族

小さな白い犬

名前はチャッピー

チャッピーはおじいちゃん

足もいたいし、こしもいたい

だからおさんぽはゆっくり

お昼ねの時は、わたしの足をまへらにいていっしょにねだね

春にはお庭にさいたすいせんの花のにおいをいっしょにか

いだね

いっしょにいっしょにくっついて

ふわふわ

ほかほか

いいにおい

そばにいるだけで

お花畑にいるみたい

いっばい大好き

でもね

わたしが幼稚園から帰ってきた

6月の晴れた日

天国におわかれ

ひまわりの花にかこまれて

ねむっているみたいなチャッピー

さみしくてさみしくて

会いたくて会いたくて

わたしはいつもおねがいしてるよ

チャッピーが天国から帰ってきますように

わたしは、チャッピーが大好き

会いたい

優良児童賞

ぴんすく

結城小学校 四年 小林 優月

まんまるおなか
ぷくぷくしてゐる
泳ぎはゆっくう
ちよつと重そう
白いおひねがひらひらまって
ちよつちよみだいにきれいだな
呼べば来るけど
ご飯の時は無視される
逆さまに寝ていたら
すき間にはさまっていたら
ちよつとまぬけな
かわいい金魚

優良児童賞

「穴」

城南小学校 四年 潮田 廉人

なんだ この穴
しかもそこらじゅうにいっぱい
なんの穴だろう
砂はまでたくさんの穴を見つけた
ふしぎでたまらない
じーっと見つめた
暑い あせがポタポタたれていく
あきらめようかな
と、その時 穴からひょこつと目がでた
まるでかんしカメラのロボットみたいだ
ぼくも負けずにじーっと見つめた
ロボットの正体はちっちゃなカニだった
カニは まっしぐらに他の穴にかけ込んだ
まるで忍者みたいにしゅん速だ
友達と遊ぶ約束してたのかな
何して遊ぶのかな
ゲームかなそれともおにごっこかな
かくれんぼかな
カニと遊ぶの楽しそう
ぼくもカニになっていっしょに遊びたいな

優良賞

すいかをそだてた

城西小学校 四年 小郷原 小太郎

六月にすいかを食べた
すいかを食べたからいっぱいたねが出てきた。
白くてうすいたね。茶色のたね。
そして大きい黒いたね。
ぼくの家の庭にたねをうえて、
毎日水やりをした。
そして、小さなめが出て、小さな葉っぱが、
生えてきた。
大きな葉っぱに、毎日つるがのびた
きいろの花がさいた。
ちようちよやはちも手伝って、
すいかの実がでてきた。
はじめはつめづらいで、ごもしましまもようごちいさなす
いか。
それが育って今はぼくの顔ぐらい。
いつに食べられるかな。来週かな。
でも食べたらなくなるぼくのすいか。
それでもはやく食べたいな。

優良賞

最新式のバス

山川小学校 四年 奥村 虎柊

水陸両用バスに乗った。
トンネルの中を走っていたのに
湖の中にスプラッシュ!!
このバス、船になった。
おどろいた。
そして、一番おどろいたのが、
バスが最新式だった。
ダム湖の中をぐるぐる回った。
ダムも見た。
ダムの下から水が、
ドバーンと飛びだしていた。
ダムはとっても大きかった。
水はとちぎから、
いばらきも通っている。
ぼくもでっかくて、
最新式の人になりたい。

優良賞

川の世界

江川南小学校 四年 伊藤 有輝

魚がすいすい泳いでる

太陽の光で 日なたぼっこ

小ブナが、かげでかくれんぼ

コイがバシャバシャ音をたてる

気持ち良さそうに泳いでる

山から流れるきれいな水

けい流のつめたい水

流れが少し弱くなり中流の流れになる

オイカワ、カワムツ泳いでる

ドジョウが川の水路でぴゅんぴゅんぴゅん

湖でタナゴがすいすいすいー

最後はかこうボラやフグが泳いでる。

優良賞

水族館

結城西小学校 五年 坂本 芽生

みんなと同じ向きに泳ぐのが好きなイワシ。

泳ぐのがハタでデリケートなマンボウ。

自分の力で泳げないけど気持ちよさそうなクラゲ。

どうしようと泳ぐサメ。

みんなそれぞれに楽しんでいるんだね。

形や性格がちがっても一つの水そうで生きている。

みんなそれぞれに持ちようをいかして、

工夫をして生きているんだね。

わたしはそれを見て、元気をもらう。

いやしてもらう。

わたしもがんばるよ。

わたしらしくがんばるよ。

優良賞

木と雨と土

上山川小学校 六年 江田 康介

サワサワ
サワサワ
木が笑ってる
今もどこかで
サワサワと

ザーザー
ザーザー
雨が泣いている
今もどこかで
ザーザーと

サラサラ
サラサラ
土がねている
今もどこかで
サラサラと

優良賞

生きとしるる

上山川小学校 六年 清藤 奏太

毎日おきて
毎日ねる。

あたり前かも
しれないけど

これのくり返しだ
一日一日生きてる

優良賞

鏡の中

結城中学校 一年 垣谷 幸歩

友達に、ちょっとだけいじわるをした。

鏡の中にうつった私が、にたりと笑ったように見えて、こわかった。

友達は許してくれたけど、モヤモヤする。

鏡の中の私は、語りかけてくるように、じっと私を見つめてくる。

友達にあやまった。

あやまるっていうのは、すごく大切なこと。

それを、鏡の中の私が、教えてくれた。

ふと、鏡を見ると、私に声をかけるように、鏡の中の私が、歯を見せて、笑っていた。

優良賞

雲

結城中学校 一年 笹川 蒼矢

自由気ままな君達は

風の吹くまま ふわふわと
世界中を旅している

上から下を見下ろして

全てを見聞きしていても
黙ってただただ流れてく

山の向こうに何がある？

海はどこまで広いんだ？
訪ねてみてもフワフワと

すまして通りすぎるだけ

おーい雲よ 聞こえるか？

今度は側におりてきて
旅の話を聞かせてよ

優良賞

おじいちゃんの畑

結城東中学校 一年 佐藤 実羽

雨の日も

風の日も

おじいちゃんは

いつも畑にいる

トゲトゲしたきゅうり

つやつやしたなすとトマト

ピーマン

ゴーヤ

ブルーベリー

収穫が終わっても

畑で仕事をしている

おじいちゃん

次の野菜の

収穫の準備をする

おじいちゃん

新鮮で

安心な野菜を

家族に食べさせたいからと笑う

おじいちゃん

優良賞

暖かい春の声

結城南中学校 一年 石川 大和

氷柱がとけ、東風が吹く

さまざまな花の香

キジとウグイスの鳴き声が混じり

山笑う

雲のすきまから顔をのぞかせる朧月

見えたと思うとはずかしそうに隠れる

花曇りの中に隠れてしまう

立春が終わり春分も終わる

こんな良い一日を寝てすくす

起きたときには、もう

かっこうが鳴いていた

優良賞

春の道

結城南中学校 一年 上野 颯斗

菜の花の間を
ゆっくると
車が通る
風がふいて
きれいにゆれて
波が立っている
どこまでも
黄色い海を進む
自由な
船のようだ

優良賞

いじめる

結城南中学校 一年 廣江 有紀

ぬってみたい
赤で
青で
黄で
真っ白な君を
笑わせたい
泣かせたい
怒らせたい
無表情な君を
遊びたい
シーソーで
ブランコで
なわとびで
一人ぼっちな君と
君は一人じゃないんだよ
君と一緒に生きるんだ
君の事を忘れない
むかしみたいに話そうよ
目をそむけないで
むき合おうよ
次は絶対捨てないよ
君がいなくて僕はひとりぼっち
戻ってきてよ
僕の胸の中に

優良賞

「僕」

結城中学校 二年 及川 凌生

四百字もの羅列の中に
納まる僕のきもち
埋めることで精一杯な僕のきもち

四十キロもの重みの中に
納まる僕のいのち
溢れでるほどの僕のいのち

きもちといのち
似ているようで全然違う
僕の中にいる二人の僕

優良賞

俺の大切な仲間達

結城南中学校 二年 石嶋 梓

俺は自転車
乗りものだぜ
主を乗せて走るんだ
毎日、主を乗せるから
よごれたり、サビついたりもするけれど
主が洗ってくれるんだ
だから、主が大好きだ
友達だっっているんだぜ
タイちゃんやブレーキくん
ベルちゃんやライトくんスタンドくん
一人ずつ紹介していくぜ
空気が入ったタイヤくん
いつもより、速く走れるぜ
主を守るブレーキくん
危険を察知し、急停止
音で危険を知らせるベルちゃん
リンリンリンと音を鳴らせば
事故防止になるすごいだろ
夜道をてらすライトくん
太陽が沈んだら、彼の出番だ
安心安全で帰宅できるぜ
力持ちなスタンドくん
俺のことが持ち上げて
支えることが出来るんだ
っとまあ、俺の友達は以上だぜ。
おっ、星が出始めた
主が帰る時間だぜ
俺が自転車
乗りものだぜ
主を乗せて走るんだ

優良賞

野球はおもしろい

結城南中学校 二年 松本 輝

〇対〇

同点でむかえた最後の攻撃

この攻撃できめてやる

僕はチャンスの場合で打席に立った

ここで打てばこの試合は勝てる

相手ピッチャーがおもしろい白球を投げた

僕はこの白球めがけておもしろいバットを振った

「カキーン」

投げたボールはバットに当たり

広い大空へとすいこまれていった

打ったボールは外野のあいだをぬけていき

ヒットになった

ランナーはホームベースめがけてすべりこんだ

「セーフ！」

主審が声をあげた

この瞬間、勝ちが決まった

僕がこの試合でチームにこうけんできた

すごくうれしかった

改めて

「野球はおもしろい」と思った。

優良賞

自由

結城中学校 三年 ファン ティ ミ フェン

私を閉じ込めないで

ビンの中のシヤムのように

鳥かごの中の鳥のように

私を並べないで

几帳面なクレヨンのように

トランプの七並べのように

私は自由

誰にも邪魔されず生きていく

扉の向こうのように

違う世界を知る

優良賞

小さな光

結城東中学校 三年 関塚 結菜

暗闇の中 一人さまよっている
暗闇の中 何かを探し 何かを求め
ただ一人歩き続けた

ふと見た先に 小さな光
やっと見つけた 小さな光
はるか遠くの小さな光は
とても輝いて見えた

いつたどりのつくか
それは分からない
でも また一人歩き続ける
はるか遠くの 小さな光へ

優良賞

水たまり

結城南中学校 三年 西村 誠士郎

雨あがりの日
道路には水たまりができていた
ぼくは幼ない子どもみたいに
はしゃいで水たまりで遊んだ
水面に映るぼくは
ゆれていた
ゆれがおさまると
そこには新たな世界が広がっていた
そこにはもう一人のぼくがいた
ぼくが手を挙げると
もう一人のぼくも手を挙げた
ぼくが笑うと
もう一人のぼくも笑った
次の日
その場所に行くと
水たまりはなくなっていた

—新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩ラ・メール」を創刊。
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花ちゃん」を寄贈。結城紬大使就任。

—新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

[目的] 結城市出身の女流詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

[募集作品] 自由題の未発表詩

[応募資格] 結城市在住、在学の小・中・高校生

[選者] 新川 和江（最終選考）・関 和代・山中 和江・吉田 峰代

[経過]

- 平成 16 年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）
●募集作品：「私（わたくし）が大人になったら」・「私（わたくし）のふるさと」のいずれかを題材とする
●応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生
●最優秀賞：「わたしのふるさと」
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 20 年度（2008） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）
●新川和江賞：「あまいみをならしてね」 海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 21 年度（2009） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「夏」 向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 22 年度（2010） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「ランドセル」 野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 23 年度（2011） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「石」 藤野 里菜（結城東中学校 2 年）
- 平成 24 年度（2012） 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「日記詩」^{にっきうた} 海老澤 朋代（結城南中学校 1 年）
- 平成 24 年度（2012） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 25 年度（2013） 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「変わらない日々」 宮田 和佳奈（結城東中学校 2 年）
- 平成 26 年度（2014） 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「やさい」 永田 美穂（山川小学校 2 年）
- 平成 27 年度（2015） 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「風のふで」 山田 明依（城南小学校 3 年）
- 平成 28 年度（2016） 第 9 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「河原の石」 浅利 直弥（結城小学校 6 年）
- 平成 29 年度（2017） 第 10 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「伝統の田植え」 須藤 啓太（城西小学校 5 年）

—結城市民の歌—

新川 和江 作詞

1. おはよう結城 わたしたちの市(まち)
むらさきの筑波のみねから
太陽ののぼる^{まち}市です
鬼怒川の流れのほとり
千年の昔も今も
娘らがはた織る音の
高らかにひびく市です
名にし負うつむぎのふるさと結城
2. こんにちは結城 わたしたちの市(まち)
旅びとも歴史をたずねて
おとずれる城下町です
いにしへの文化の上に
あたらしい未来をひらく
ひとびとが心寄せ合い
すこやかに暮す市です
かぎりなく伸びゆくふるさと結城
3. こんばんは結城 わたしたちの市(まち)
はつ夏はあの道この道
桐の花におう市です
桑の実にくちびる染めて
幼い日あそんだ友が
祭りには胸はずませて
遠くから帰る市です
なつかしい灯ともすふるさと結城

ことばはいつ 詩となるのであろう
猿に噛みくだかれた木の實が
むろの串で年月を経て酒となるように
夜ふけに草をしめらせし露が
あけがた葉末で玉となるように

新川和子

花の名

新川 和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじ

花の名をいうときには

この春やつと

ひらがなを覚^{おぼ}えた^{おぼ}たちいさな妹が

やわらかな鉛筆^{えんぴつ}で

一字書いては

うれしげににっこりするように

わたしは発音^{はつおん}するのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして さくら……

